

森林官からのあたより

伊豆森林管理署 狩野森林事務所 森林官 矢田部 彰久

当森林事務所は、狩野川が流れる静岡県東部の伊豆半島のほぼ中央に位置する伊豆市（旧天城湯ヶ島町）にあり約2,900㍍の国有林を管理しています。管内には「天城山太郎杉」や「滑沢渓谷」をはじめ、「浄蓮のハイコモチシダ」・「茅原のエドヒガンザクラ」・「本谷お礼杉」・「八丁池」など貴重な自然、植物などが数多くあり、また伊豆市の観光名所でもある「浄蓮の滝」・「旧天城山隧道」などもあり四季を通して多くの観光客が訪れています。

「天城山太郎杉」は、樹齢は推定450年以上、高さ53m、幹周り13.6mで静岡県の天然記念物に指定されており、伊豆半島を代表するスギの一本で長年風雪に耐えてきたものです。その姿は周りの樹木を圧倒し、『森の巨人たち100選』にも選ばれています。太郎杉には滑沢渓谷（天城山を源とする本谷川の支流で伊豆最大の安山岩の一枚岩の上を清流が流れる渓谷）入口から、遊歩道を渓谷沿いに歩くか、もしくは林道で行く事ができ、気軽に太郎杉を見ることが出来ます。

また、「八丁池」は、標高1,170mにある天城火山の火口湖で池の周囲が八丁（約870m）あることからその名前が付いたといわれ、また、池の周囲をスズタケが覆っているところから、別名アオスズの池とも呼ばれています。この八丁池の周囲のブナ林は典型的な太平洋型のブナ林とされ、ヒメシャラやカエデなどと混交しており、貴重な生態系、景観を備えているということでブナ群落保護林に指定されています。昨年の10月には八丁池ブナ群落保護林観察会が開かれ、参加者は貴重なブナ林を堪能していました。



天城山太郎杉



八丁池



ブナ群落保護林観察会での参加者

当管内は、ほぼ全域保安林に指定され、国立公園特別保護地をはじめ、国立公園に指定されている部分も多く、「太郎杉」や「八丁池」以外にも沢山の観光客が訪れる場所が国有林内にあり、入林者が比較的多いのが特徴です。このことから、環境と景観に配慮した施業が必要と考えています。

現在、基幹作業職員2名と共に事業を実行していますが、近年ニホンジカによる食害が著しく、その対策として設置した防護柵を維持していく点検・修理が事業の多くを占めるようになってきました。また、シカの防護柵を設置した植林地に、今度は野兎の被害が始め、せっかく順調に育ちはじめた苗木に被害を及ぼしています。野兎対策として忌避剤の散布も実施していますが、効果が長続きしないため苦慮しているところです。

当森林事務所管内には貴重な自然環境が多く残っています。それらを今後も適切に保存しつつ、計画的かつ効率的で成果のある業務を実施して行きたいと考えています。